

目指せ10億円産地！県内トップブランドを誇るりんご産地の挑戦

さがえ西村山りんご部会

部会長 長岡 秀昭（西村山管内5市町）

1 受賞者の概要

西村山地域では古くからりんご栽培が盛んに行なわれ、数量、品質とも県内のりんご栽培を牽引してきた有数の産地である。しかし、生産者の高齢化、後継者不足等により年々生産量が減少し、産地の継続が懸念される状況であり、この課題に対応するため広域多目的選果施設の機能強化を図り、消費者ニーズに対応した生産・販売活動を展開している。

令和5年度の部会員数は315名、販売金額8.4億円である。JA全農山形の販売金額及び販売単価は県内トップのブランド産地である。

2 特色ある活動

(1) 多様なニーズに応えるブランド化の推進

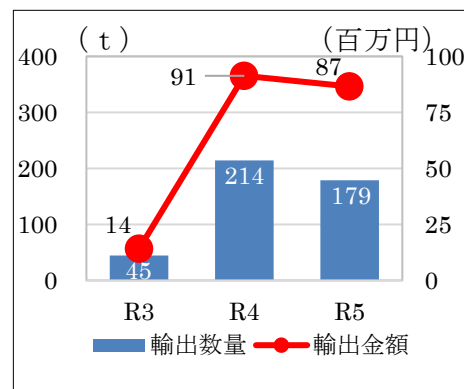
多様化する消費者ニーズに対応するため、様々な付加価値を付けたりんごの生産・販売に取り組んでいる。具体的には、生育診断により好適樹を厳選し、落葉するまで樹に着果させた糖度保証のりんご「ハレふじ」や、8月中旬以降の農薬散布を行わない生活クラブ生協向けの減農薬栽培のりんご「チャレンジりんご」など、消費者ニーズに合わせた生産の取り組みを展開している。



選果機による箱詰め

(2) 海外輸出を推進

部会員の所得向上と地域活性化のため、かねてより取り組んできた海外輸出の拡大を図るため、高い鮮度保持効果が期待できるスマートフレッシュ処理施設を新たに整備した。その結果、令和4～5年度の海外輸出は、販売数量が広域多目的選果施設導入前（令和3年）の約4倍、販売金額は6倍以上に増加している。



りんご輸出量の推移

(3) 新規就農者育成の取組み

りんごを栽培する新規就農者は、毎年1～2名増加している。近年は、県外から移住し新規参入を目指す就農希望者も多く、部会員は研修生を受け入れ、積極的に技術指導に当たっている。



新規就農研修の受入れ

3 今後の発展方向

国内及び海外の多様化する消費者ニーズに対応し、県内最大の統一共選のりんご産地という強みを活かしながら、産地を維持・発展させ、10億円の販売額を目指していく。